

# 研究便り



令和８年 10 月１５日
研究推進便り　　No.６
文責：研究主任

## ★低学年分科会　研究授業・協議から学んだこと★

令和８年９月３０日（水）
授業者：２年２組　教諭
指導・講評：大田区教育委員会 STEAM 教育推進専門員

**【対話】関わることで、考えが広がる・深まる**

本時では、友達のおもちゃを見たり、一緒に試したりする中で、友達の工夫に気付き、自分の考えを広げていく姿を目指しました。授業前にも、友達との関わりからどのような気付きや工夫を得るかを、授業を見る視点として共有していました。一方で、自分のおもちゃや遊びに満足している児童も多く、友達の考えを聞いたり、工夫を取り入れたりする姿は十分ではありませんでした。今回の御指導から、対話は単に考えを「伝え合う」だけではなく、他者と関わることで、自分の考えが広がったり深まったり、新たな価値が生まれたりすることとして捉えるという視点を学びました。こども同士を関わらせること自体を目的とするのではなく、「友達の工夫を見て、自分もやってみたい。」「一緒に試したことで新しいことに気付いた。」などの関わりが次の活動や考えにつながるような場や手立てについて考えていきたいと思います。

**【協働】こどもが必要感をもって関わるために**

今回の授業では、自由に友達と関わりながら試行錯誤ができる時間を設定しました。しかし、自由に関わることができる場があるだけで、自然に協働が生まれるわけではないことも、こどもたちの姿から見えてきました。

指導では、「誰と学ぶか」「どのように学ぶか」を、必要に応じてこども自身が選択・決定していくことについてもお話がありました。教師が一律に交流の形を決めるのではなく、こどもが「友達に聞いてみたい。」「あのおもちゃを見てみたい。」と思えるようなきっかけをつくりながら、必要に応じて自分で学び方や関わり方を選んでいくことが、自己調整する学びにもつながっていくことを学びました。そのために、友達の工夫を途中で紹介したり、見本や道具を用意したりするなど、こどもが自分で選び、動き出せる環境を教師が整えることも大切な視点となりました。

**【創造】試行錯誤を繰り返し、よりよいものへ**

本時では、「作る→試す→遊ぶ」を繰り返しながら、一人一人が自分なりの「パワーアップ」を目指しました。こどもたちは、おもちゃの形や仕組みを変えるだけでなく、「みんなが楽しめるようにルールを工夫すること」や「遊び方を分かりやすくすること」もパワーアップとして捉えていました。御指導から、生活科では「楽しい」「うれしい」といった『快』の感情を活動の原動力に、体験と表現を発展的に繰り返していくことについて学びました。一度作って終わりではなく、「試す→気付く→また試す」という試行錯誤を繰り返す中で、「もっとこうしたい」という思いや願いが生まれ、よりよいものを創り出すことにつながっていきます。こどもたちの「もっとやってみたい」が次の活動へとつながるような学習の流れを大切にしていきたいと思います。

**「おおたの未来づくり」につなげて**

今回の研究授業を通して、身近なものに自ら働きかけて何度も試すこと、友達との関わりから新たな気付きや考えを得ること、そして、自分の思いや願いに応じてよりよいものを創り出していくことについて、改めて考える機会となりました。低学年で、身近な「人・もの・こと」と関わりながら、試したり、考えたり、友達の考えを取り入れたりする経験を重ねていくことは、高学年の「おおたの未来づくり」につながる学びの素地になっていきます。

今回の授業で学んだ目的をもち試行錯誤することや他者と関わることを、生活科の学びだけで終わらせず、他の教科や総合的な学習の時間、「おおたの未来づくり」へとどのようにつないでいくのか、今後も皆で考えていきたいと思います。